

発刊にあたって



本県は、富士山をはじめ南アルプス、秩父山地、八ヶ岳などの雄大な山々に囲まれ、変化に富んだ自然環境や豊かな水に恵まれており、多様な野生動植物が生育・生息しています。

しかし、我々人間の生活は、時として自然環境に大きな変化をもたらします。その変化を含めた様々な要因により、多くの野生動植物に絶滅のおそれが生じており、これらを保護し、多様な生物を有する豊かな環境を次世代へ引き継ぐことは、今を生きる我々の責務であります。

本県では、自然環境の保全に向けた取り組みを推進するため、「ダイナミックやまなし総合計画」に基づき、野生動植物の生息・生育状況を平成27年度から3年にわたり調査し、レッドデータブックを改訂しました。今後は、新たな知見により改訂された本書を活用し、最新データに基づいた自然環境保全施策を推進して参ります。

県民の皆様には、絶滅のおそれのある野生動植物の現状へのご理解と共に、恵み豊かな環境の保全のために、今後ともご協力いただけますようお願いいたします。

むすびに、長期間にわたり県内を調査され、本書の改訂にご尽力いただきましたレッドデータブック作成委員会委員の皆様、調査員の皆様、ご協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

山梨県知事 後藤 斎

はじめに

野生生物の保護にあたりよりどころとなるレッドデータブックは、全国的な視野からは環境省により、また各地域の現状を反映するものとしては各自治体により作成されています。山梨県でも2005年に初版が作成されましたが、10年以上が経過したことから、現状を反映させるために今回の改訂となりました。この間、レッドデータブックに対する県民の関心は高まり、野生生物の重要性についても関心を持って見られるようになりました。

山梨県は標高差の大きな山岳地帯に囲まれており、変化に富んだ地形・地質・気候により多様な植生が見られます。そして豊かな水に恵まれ、多種多様な動物が生息しています。これらは山梨県民の財産であり誇りとなっています。

一方で近年、地球規模の温暖化、開発等の人間活動による野生生物の生存の危機が問題視される中、その生息・生育環境等の現状把握や、生物の多様性保全の重要性が指摘されています。山梨県でも2005年からの10年あまりの間に、今までにない速度で環境変化が見られるようになりました。2014年に南アルプス地域は、豊かな自然環境が認められユネスコエコパークに登録されましたが、南アルプスを含む県内の高山地域に生息・生育する野生生物に対する、地球温暖化やニホンジカによる食害の影響が指摘されています。また、人間活動の多様化に伴う外来生物の分布拡大や、獣害・住民の高齢化に起因する森林や農地の手入れ不足等による、里山環境の荒廃も見られるようになりました。

今回の改訂に参画した調査員の多くは山梨県に在住し、長年にわたりそれぞれの専門分野で調査記録を積み上げ、その変化を日々見つめて来ました。それだけに山梨県の豊かな自然環境を後世に残す重要性を強く感じ、現状の厳しさを肌で感じながら、危機感を持って調査・選定・執筆にあたりました。本書に掲載された多くの種が絶滅の危機に瀕していることを理解していただき、現在私たちの身の周りに普通に見られる野生生物もまた、環境の変化にさらされていることを考えるきっかけになればと思います。

選定・執筆に当たってご指導・ご協力をいただいた多くの専門家の皆様、また、みどり自然課をはじめとする行政の方々のご尽力に感謝します。

また、本作成委員会の委員長であった大久保栄治先生は、本書の完成を待たずに他界されました。先生は山梨県の植物研究の第一人者であり選定作業の中心的役割を担っておられました。先生の残された業績に敬意と感謝の意を表すとともに、哀悼の意を表します。

本書が、野生生物保護対策の基礎資料として、山梨県の豊かな自然環境を守る上で幅広く活用されることを期待しています。

山梨県レッドデータブック作成委員会委員長 湯本 光子